

愛護センターだより

発行: 敦賀市少年愛護センター

住所: 敦賀市東洋町1番1号

電話: 0770-23-0189 Fax: 0770-23-0523

『青少年健全育成都市宣言』 都市: 敦賀市

その写真 大丈夫？

2024年5月にこども家庭庁と文部科学省は、全国の保育園や幼稚園などに、「ホームページに掲載された裸で写っている園児の画像が、第三者に悪用される事例がある」ということで、こうした画像が掲載されていないか点検し、掲載されている場合は即刻削除！という指示を出しています。まさか子どもを預かる園で子どもの裸を掲載するなんて…と思いますが、水遊び等の様子をホームページなどで紹介する際に、裸になっている子どもが映り込んでしまっている場合があったのかもしれない。



どうしてこんな通知が出たのかというと、保育園や幼稚園などのホームページやブログに掲載された水遊び等の画像が、海外のポルノサイトなどに転載され、外部のサイトに複製・保存され、人工知能(AI)の学習に使われるデータに取り込まれていた…ということがわかったからです。



こうした事実が判明したわけですから、「子どもの性的な部位を含む画像をホームページなどに掲載して、不特定多数の者が閲覧可能な状態にすることは、子どもの権利を守る観点から問題だ」と指示を出すのは当然というか、遅いぐらいです。

聞くところによると、小児性愛者らが集まるネット掲示板には、匿名の投稿者らが頻繁に情報交換をしているとのこと。そこでは、子どもの写真が売り買いされていて(もちろん、本人の承諾なしに)、園で水遊びをしている裸の子どもたちの写真が顔も判別できる状態であった…というのです。今話題の生成AIを使えば、その子の顔を使って合成画像を作ることできますし、その子を成長させた姿を創り上げることも可能です。写真一枚あれば、簡単にどのようにでも加工できる時代。不用意に掲載された画像一枚で、その子の将来が閉ざされる可能性があります。

オーストリアでは、両親がおむつ替えのようすやトイレトレーニング中のようすを含んだ約500枚の写真がFacebookに掲載したことについて、18歳女の子が両親を訴えるというニュースが少し前にありました。ネット上に拡散された自身の写真を目にし、心に傷を負った…というもの。女の子はこれまでに両親に写真の投稿をやめ、削除するよう求めたそうですが、父親がまともに取り合わず、要望に応じなかったため、裁判にまで…。拡散された画像は消えませんし、その画像によってわが子が辛い思いをする可能性があることを、親としてしっかり考えないといけませんね。



動画投稿！

愛護センターの補導日誌にも、量販店等で動画撮影をしている子ども達についての記述を目にします。スマートフォン片手に動画が手軽に撮影でき、それをTikTok等に簡単に投稿できるようになっています。その動画がSNSで人気を集めれば、ビッグチャンスも夢ではない…というのが「今」です。



さて、その動画撮影について、GMOメディア株式会社が、令和5年11月全国の女子中高生803人(女子中学生654人、女子高校生149人)を対象にアンケートを実施した結果が令和5年12月に発表されました。その結果は、女子中学生は33.9%、女子高校生では48.5%が「動画をSNSに投稿したことがある」と回答。また、「SNSで公開制限している」女子高校生は63.1%、女子中学生は45.4%だったそうです。

投稿の割合は女子高校生の方が高いですが、半数以上が誰もが見られないように気遣っているようです。一方、女子中学生は投稿の割合こそ女子高生に比べて低いものの、半数以上が公開制限なし。投稿動画を悪用する視聴者の存在を考えると、その危険性を認識しているのかどうか確認が必要になります。令和5年12月に、ソーシャルネットワーク分析会社グラフィカが調べたところ、写真の女性の服を脱がせるアプリの利用が令和5年9月だけで2400万件。動画投稿の良い点と危険とをしっかりと理解した上で投稿しないと、自分の未来に影響を与えかねません。

さて、スマートフォンのカメラで動画を撮影することがある女子中高生679人の「動画を撮る頻度」や「動画をSNSに投稿する目的」についての質問(複数回答)には、右の表のような回答でした。

	女子中学生	女子高生
1位	月2~3回 24.8%	数ヶ月1回 26.1%
2位	毎日 21.3%	月2~3回 20.9%
3位	数ヶ月1回 20.6%	毎日 17.2%
4位	週1~2回 15.4%	週1~2回 15.7%

若者の中で「タイパ(タイムパフォーマンス)」が重視されるという中、「暇つぶし」で毎日のように動画を撮影し、投稿。それと引き換えに自分の将来を危険にさらしていると考えたと、ちょっと怖いですね。

	女子中学生	女子高生
1位	暇つぶし 60.5%	自分の記録 60.0%
2位	イネがほしい 43.8%	暇つぶし 50.8%
3位	自分の記録 39.5%	イネがほしい 32.3%

子ども達の動画投稿について、ご家庭で把握されていますか？SNSは、いろいろな可能性が広がるツールですが、よく考えて利用しないと、思わぬ事態を招いてしまいます。その利用についてよく話し合ってください。

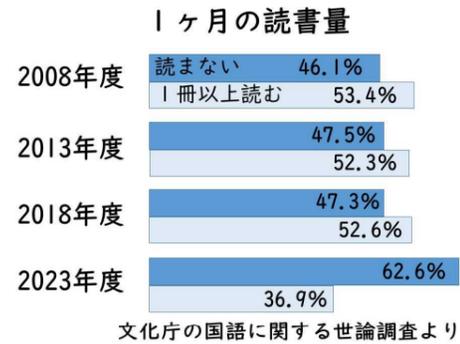
ちなみに「スマホで何の動画を撮ることが多いですか(複数回答)」の質問には、女子中高生いずれも「推しに関するもの」(中学生68.3%・高校生61.2%)が最多で、「外出・旅行の記録」(中学生42.0%・高校生44.0%)、「友人・知人」(中学生39.8%・高校生41.8%)、「文化祭や卒業式などの学校行事」(中学生33.9%・高校生41.8%)だったそうです。



「本を読まない」6割

「秋」と言えば、「文化の秋」「食欲の秋」「スポーツの秋」といろいろと思ひ浮かびます。その代表的な一つに「読書の秋」があります。その読書に関する話題。9月17日に文化庁が公表した「2023年度の国語に関する世論調査」によると、月に本を1冊も「読まない」と回答した人が、前回調査（5年前）から大きく増え、初めて6割を超えたということです。秋の夜長に読書…という文化はなくなりつつあるのでしょうか。

この文化庁の調査は5年ごとに行われていて、今回は今年1～3月、全国16歳以上の男女6000人に郵送し、3559人の回答をまとめたもの。2008年、2013年、2028年の「読まない」という回答が46.1～47.5%であったのに対し、2023年はいきなり15ポイントほど上昇し62.6%。ただ、前回までは面接方式の調査で、今回と方法が異なるため単純比較はできないというものの、驚きの数値。



読書量についての質問では、69.1%が「減っている」と回答（年齢別の資料なし）。読書量が減った原因についての16～19歳の回答は、「情報機器（携帯電話・スマートフォン）で時間が取られる」が70.9%（年齢別1位）、「仕事や勉強が忙しくて読む時間がない」が56.4%（年齢別4位）、「読書の必要性を感じない」が12.7%（年齢別1位）。「読書の必要性を感じない」というのはショックです。情報機器からいろいろな情報があふれ出ている今日ですから、本を読んでまで情報を入手しなくても…ということでしょうか。読書は短時間にパパッとできるものではありませんから、タイパ（タイムパフォーマンス）を気にする世代は敬遠しがちなのでしょうか。

また、「電子書籍を利用する」のは「よく利用する」「たまに利用する」を合わせて、全体で40.3%、16～19歳で53.0%（30代 72.4%、20代 65.1%、40代 60.3%）。電子書籍も含めての読書に関する質問ですから、16～19歳の子ども達はよく情報機器は手にしていても、読書は選択しないようです。

本を読まない人に「SNSやインターネット上の記事などの情報を読む機会がどのくらいあるか」の質問には、全体で75.3%、16～19歳で58.2%が「ほぼ毎日ある」でした。逆に、16～19歳の41.8%は「毎日、文章を読んでいない」と言えそうです。ネットやSNSの文章は短いため、それに慣れてしまって、長い文章を読むことに抵抗があるのでしょうか。

読書には、「想像力が豊かになる」「思考力が高まる」等々、いろいろとよい効果があります。それにより、円滑な対人関係を築くことができ、自身の人生を豊かにもしてくれます。子ども達には、ぜひ読書に取り組んでほしいものですが、無理矢理読ませるわけにもいきません。まずは、気が向いた時に、子どもが面白いと思うような本を手にするような環境を整えることがスタートでしょうか。



青少年への愛のひと声活動……補導日誌から

○9月11日（水）15:00～

カラオケ店の前に鍵のかかっていない自転車があったので、店員さんにお客様には必ず鍵をかけて入って来てもらうように言葉かけをお願いしました。丁度、自転車の持ち主が中から出てきたので、自転車の盗難が多いことを話し、自転車から離れる時は鍵をかけ忘れないように話を別れました。



○9月20日（金）15:00～

ちえなみきの2Fから遊具の激しい音がするので見に行くと、小学生女児2名がブロック全部を移動させてダイナミックに遊んでいた。「凄い音がしたけどどんな遊びをしているの？」と聞くと、逆に「学校の先生ですか？」と質問。「先生ではないけど、何か困ったことあったら助けてあげたいな、と思って…」と返すと、「クラスの男の子が嫌なこと言ったりしてくる」と話し始めた。いろいろな話を聞き、「みんなと一緒に遊びたいし、友達になりたいくて、嫌なこと言ったりしてくるかもしれないね」とまとめたが、本人達はそんな言葉で納得していないと思う。ただ、いろいろな話をしてくれたことを嬉しく受け止めたい。しかし、自分達のしていることの注意を聞きたくなかったため、話を逸らせたのかなあとも思え、複雑な心境になった。



○9月20日（金）19:00～

明日から開催されるマルシェの準備のためオルパークが閉鎖されており、オルパークに来る高校生のグループにその旨を伝え、帰宅指導をしました。こちらの声かけにどんな反応をするのか不安でしたが、「は～い、わかりました」と素直な返事が返ってきて安心しました。補導をするようになってまだ日が浅いですが、声かけに返答してくれる生徒ばかりで、素直な生徒が多いことと、それを見守ってくださっている補導の方々のお陰で平穏な毎日が送られていることに感謝の思いで一杯になりました。



○10月3日（木）19:00～

ottaの机とベンチのところに、女子高校生5～6人のグループが3組ほどいた。騒いでいたが、保護者らしき大人もいたので声かけはしなかった。このような場合、声をかけるべきか悩む。

○10月11日（金）15:00～

量販店のフードコートで高校生女子3人組が鏡を見ながら化粧をしていたので声かけすると、「今日やっと試験が終わって化粧しています！」とのこと。「いつもしてるの？」と聞くと、「してませ～ん。」「たまに、ばれないように…」とハキハキとかわいらしい返答でした。「暗くなるのが早いから気をつけてね」と言って、別れました。

